

令和3年度 学校評価書

学校教育目標 「すすんで学び、よりよく生きる人を育てる」

めざす子ども ○心も体も元気な子ども ○生活する力のある子ども ○自分の思いや気持ちを伝える子ども

【評価】 保護者による評価 A：3点、B：2点、C：1点、D：0点として点数の合計による評価（質問項目ごと保護者最大 60点） 家庭数 20
 教員による評価 A：3点、B：2点、C：1点、D：0点として点数の合計による評価（質問項目ごと教員 最大36点） 教員12名
 達成度 A:達成できた（8割以上） B:ほぼ達成できた（6～7割） C:あまり達成できなかった（4～5割） D:達成できなかった（3割以下）

めざす学校	重点	評価項目	具体策・評価指標等	達成状況	達成度	課題（△）及び改善策（→）
1 安全な学校	安心・安全な学校	(1) 新型コロナウイルス感染症防止対策として、児童・職員の健康管理、環境整備、衛生面での指導を実践している。	・基本的感染症防止対策の徹底（うがい、手洗い、マスク着用、換気、消毒等）	・マスク着用や手洗い指導を継続して行うことができた。1学期はマスクの着用に抵抗があった児童も付けられるようになり、成長が見られた。 ・消毒液を教室で管理し、こまめに手指消毒することができた。 ・手順に沿った手洗いとハンカチの携帯が習慣化できた。手順の掲示物も良かった。 ・常に窓を開けて換気し、各教室にサーキュレーターを設置した。	A	<p>【健康・安全】<学部 生活部></p> <p>△長期休み明けや、寒さなどで手洗いが粗相になってきている児童もいる。 →日常的な指導を継続して行っていく。</p> <p>△廊下で遊ぶ児童の対応について →廊下は走らない、遊ばないということを学校生活上のルールとして確認する。</p> <p>【危機管理・津山小と安全面の連携】<生活部></p> <p>△天童校独自の学習や訓練があっても良いのではないかと。 →基本的には、津山小の校舎内外における災害時の避難訓練であり合同で実施する必要がある。一方、天童校として目的を明確にした上で計画・実施は可能である。</p>
		(2) ヒヤリハットの集積や解決策の共通理解を通して、事故やいじめの未然防止を行っている。	・毎日の学習環境点検、通学時駐車場での安全確保、きめ細かな生活指導	・通学時、駐車場での職員2名の誘導により、事故なく安全に通行できた。駐車場では車の動きと人の通行に細心の注意を要した。 ・各学年で、不審者対応の学習に取り組めた。毎年の積み重ねが必要である。		
		(3) 津山小学校と合同の避難訓練、安全マニュアルに基づく職員研修等を実施し、緊急時の対応に備えている。	・避難訓練、職員研修の実施	・津山小との合同避難訓練を計画通り実施できた。初回は天童校の職員と児童のみで「避難の経路と誘導の確認」を行った。 ・緊急時の対応を職員間で共通理解できた。また、緊急時の役割を明確にするためアクションカードを活用した。		
		(4) 児童・保護者の相談や地域の学校等からの要請に応じて、関係機関と連携し特別支援コーディネーターと巡回相談員を窓口にして相談事業等に努めている。	・保護者・関係機関との連携	・保護者と連絡帳や登下校時のやり取りを通して、連携しながら一人一人に応じた指導・支援ができた。必要に応じて保護者面談をもった。 ・相談支援事業所や放課後等デイサービス事業所と、電話や下校時に情報共有し、指導・支援に生かした。 ・各関係機関と連携すると共に、校内教員間で情報を共有して児童の指導に取り組むことができた。		
		<p>評価点集計 教員 (1)33点 (2)29点 (3)32点 (4)34点 教員128/144満点 88.8% 保護者(1) (健康・安全：53点) 保護者(6) (保護者との連絡：53点) 保 106点/114満点 92.9% 集計結果 90.6%</p>				
2 楽しい学校	一人一人に応じた指導・支援の充実 楽しく充実感のある授業の改善	(5) 個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成・活用し、個に応じた指導・支援に取り組んでいる。	・作成・活用、毎日の授業記録と振り返り	・個別の教育支援計画、個別の指導計画、個別の単元題材計画作成に早い時期から取り組めた。保護者へ第1回保護者面談(5月)で資料を提示した。作成に際して、客観的な実態把握と評価ができるよう、複数の目で検討した。 ・児童に身に付けさせたい力を意識しながら教材研究を行うことができた。	A	<p>△次にねらう目標を意識し、児童が段階的に成長できるように指導したい。</p> <p>→授業づくり、授業改善、授業研究会等の機会を捉えて、学習指導要領に基づいて学ぶ機会をもつ。</p> <p>→次年度は年間教務部計画に ICT 活用と図書管理関係を含め、計画的に取り組めるようにする。</p>
		(6) 集団生活の中で一人一人の力を発揮できるように指導・支援ができています。	・児童の教育的ニーズ・実態の情報交換 実態や障がい特性に応じた学習内容・形態の検討と実践	・児童について職員間で共通理解を図りながら、指導・支援に生かすことができた。 ・ティームティーチングを効果的に活用し、教員の得意なことを生かした授業を行うことができた。 ・活動の積み重ねや繰り返しの指導により、子ども同士のかかわりやコミュニケーション面での成長が見られた。また、集団学習の中で友達を意識したり、かかわりあったりすることが増えた。 ・儀式や地域との交流(特活)、津山小運動会、むらとくまつり等は、地域の感染状況や天童校の実態などを考慮し実施できた。		
		(7) キャリア教育の視点から、日常生活の指導やコミュニケーション能力の育成を大切に、経験の拡充を図り、生活年齢に合わせた体験的な学習に取り組んでいる。	・段階的・発展的に進める指導・支援	・視覚支援教材の提示や繰り返しの指導により、荷物整理や着替え、国語・算数などで成長が見られた。 ・給食では支援の工夫により食べる量が増えた児童、食事のマナーを伝えて食べ方が上手になった児童など成長が見られた。 ・中学部、高等部、社会に出た時の姿をイメージしながら、今の指導を考えることも必要だ。意識して取り組みたい。		
<p>【研究・研修】<研修・相談部 教務部 小学部></p> <p>△研究テーマや課題が明確に示された方が研究として積み重ねる意味がある。実践集作成に当たり、集約をもう少しポイントを絞ると良い。</p> <p>→職員のアンケートや全体研究会での協議を受けて方向性を探っていく。</p>						

		(8) 授業研究会の計画的な取組や研修をとおして学習指導の充実に努めている。	・計画的な授業研究会の実施と実践の積み上げ、事前・事後研究会での情報発信・指導助言による専門性の向上	・授業研究会を計画的に進めることができた。 ・学習グループで授業を提供し、全教員で授業改善について考える機会があり良かった。 ・研究日より、実践集に成果や課題をまとめることができた。 ・ICTの活用を校内研究で取り上げたことで、これまであまり使用していなかった情報機器を、少しずつ使用するようになった。また、他の先生たちの活用の仕方を学ぶ機会になった。		
		(9) 学習指導要領に基づいた目標設定や3観点による評価について研修を深め、授業改善に努めている。	実態把握と目標設定、3観点の評価と授業改善	・評価後に担任として授業について振り返り、後期の授業改善に取り組めたクラスが多い。 ・体育の3観点チェックシートを活用し、より具体的に目標設定や評価の記録を行うことができつつある。 ・学習指導要領をもっと詳しく読み、理解して授業作りをしなければならぬ。		
		(10) 津山小学校との交流や地域交流等をとおして、人との関わり方や自分の思いを伝える力を育てている。	学校間交流(計画的、日常的)、地域交流(施設・人材等資源の活用)、地域資源の活用	・津山小との交流(仲間を迎える会、2年生交流、音楽教室、フレンズデー)ができた。本校や山形校、津山小2年生と学年ごとに積極的に間接交流を進められた。 ・直接交流が難しい中で児童作品を市役所に展示した。また、学校前交差点に交通安全の看板と花のプランターを設置した。		
		(11) 体育や遊びの中で教師と一緒に楽しく活動し、運動の楽しさや喜びを味わう実践ができています。	体育、遊び、スポーツに対する興味・関心を高める実践	・体育を毎日繰り返し、アレンジしながら取り組むことで、運動に対する意欲が高まっている。上学年が良い手本となっている。 ・体育では、チェックシートを活用し、単元ごとに目標を立てて取り組むことで、技能面や意欲の向上が見られた。 ・全児童と一緒に活動し楽しく児童同士が刺激し合っている。 ・目標設定や評価により、指導の努力が児童の姿に反映されている。		
		評価点集計 教員(5)31点 (6)33点 (7)31点 (8)30点 (9)29点 (10)26点 (11)34点 教員214/252満点 84.9% 保護者(2)(成長:55点)保護者(3)(指導支援:53点)保護者(4)(体を動かす:54点)保護者(5)(交流:50点) 212点/228満点 92.9% 集計結果 88.9%				
3	頼りになる学校	保護者や地域への情報発信	(12) 教育相談の実施や地域の学校の授業研究会等での指導等、特別支援教育のセンター的機能を果たしている。	他校授業研究会への指導・助言、外部教育相談	・巡回相談の依頼(市内小学校の授業研究会等)に対応できた。	
			(13) 地域の方との交流、地域回覧用の学校だよりの定期的な発行、学校紹介リーフレットの作成・活用により、児童校の情報を発信している。	地域資源・学校だよりの発行等	・PTA活動は感染防止対策をとり、可能な活動を実施できた。 7月本校進路職員研修会 10/20 県特P研修大会 保護者6名 10/23 第1回保護者会 29名 12/16 保護者活動「おさがり交換会」 ・地域への「学校だよりの発行」年4回 ・児童作品展実施(市役所) ・地域美化・交通安全呼掛け活動	
			評価点集計 教員(12)32点 (13)33点 教員65/72満点 90.2% 保護者(7)(地域への発信:55点)保護者(8)(学校からの情報:52点)保 107点/114満点 93.8% 集計結果 92%			
4	働かせようとする学校		(13) 会議や打合せの精選・適切な時間設定により、授業の準備や教材研究、研修等の時間の確保に努めている。また、在校等勤務時間管理を行い、より良い働き方に努めている。	一人一人の働き方改革の意識、計画的・効率的な業務の進め方	・授業や指導・支援について、多くの教員といろいろな方向から考えたり、授業改善について話し合ったりすることができた。 ・授業研と体育の担当が重なったときに担当を交換したり、研修で多忙の時期に調整したりしたのが効果的だった。 ・公開校内研究会に向けて計画通りに進まず、間近の11月の業務が多忙だった。	
			(15) 全職員で情報を共有し、課題解決に向けて取り組んでいる。	一人一人の専門性、得意分野を生かした役割や担当の調整。意見や思いを出し合える場や環境	・職員同士で児童の話をしやすい雰囲気がある。 ・学習活動全般において、必要に応じて担外の先生にサポートしてもらいありがたい。 ・得意とするWordやパワーポイントで資料を作成し、授業で視覚的に活用することができた。	
			評価点集計 教員(14)29点 (15)27点 56点/72満点 77.7% 集計結果 77.7%			

【学校間・地域・居住地校交流】<教務部、小学部>
△今後も継続的に交流活動に取り組みたい。

→地域交流は、ボランティアの活用等を含め、持続可能な交流の方法を探る。

→居住地校交流は、保護者の意向を確認しながら、段階的に取り組み、双方の児童にとって意義のある活動を無理なく計画・実施する。

【かわり・思いを伝える力】<全体>
△児童理解について学部会で定期的に時間をとっているが、不応の状況が続いている児童については、担任から積極的に発信があれば良い。
→早目に担任から全体へ話題提起し、必要に応じてケース会議を開く等、組織で解決に向けて取り組む。

【体育・遊びの充実】<生活部、小学部>
△同じ活動内容の中で、技能面でどんどん動くことができる児童と、段階が低い児童に、どのようにねらいを定めていくか難しかった。
→基本のコース+チャレンジコースなど、個別化が図れるコースを担当が中心に話題にして設定していく。終礼などで、体育の活動内容等について話題にする。

【地域への情報発信】
△「地域に根差し地域に開く特別支援学校づくり」を目指すために
→今後も学校の実情に合わせた独自の継続的な取組が必要である。共生社会の実現に向けて、一歩一歩地道に努力を重ねていく必要がある。

【センター的機能】<教務部、小学部、巡回相談員>
△巡回相談について
→外部支援のファイルを作って保管をしているが、授業の詳細やこちらで出した資料など参考になるものを教員間で回覧し共有する。
→外部支援については、その時の部員の仕事を見ながら調整していく。3人で指導・支援する内容をよく確認し、どの部員も小学校への依頼に対応できるようにしたい。

【働きやすさ、協働】<全体>
△公開研と巡回相談の時期が重なった。
→地域の学校の巡回相談の依頼に対応するには、日程調整や担当者について、研修・相談部と管理職とで相談し、無理がないように実施する。
△一人一人の得意分野は、各自の研修・研鑽が必要だと感じている。
→各自または組織で、研修の機会を積極的にもつ。ウェブ研修、専門書等の紹介も積極的に行う。ゆとり創造に努め、研修の機会をつくる。
△一部の教員に負担が偏らないようにしたい。
→児童の実態把握・事前指導や事前準備、見通しをもった計画がないと直前になって一気に準備を進めたり、時間がない中で準備や話し合いを行ったりしなければならぬ。前年度までの経験や計画を生かしつつ、現在の状況を基に再構成したものを早目に企画立案するように全員が心掛けていく。

A

B